



木彫人形(儀礼用の衣装を身に着けた男性)2点とも国立民族学博物館所蔵

【共催展示】

～版の世界～

所蔵作品と北西海岸インディアンの版画

■期間：2008年8月2日(土)～8月31日(日)

■会場：網走市立美術館

(網走市南6条西1丁目 / 電話0152-44-5045)

\* 共催割引があります。詳しくは受付にお尋ねください。



版画(ワシ/人) Art Thompson作 ヌートカ カナダ  
北方民族博物館所蔵

- ◆開館時間：9:00～17:00 (10月は9:30～16:30)
- ◆休館日：10/6(月), 14(火) \*7～9月は無休
- ◆特別展観覧料：一般450(360)円、高・大生150(120)円  
中学生以下無料 ※( )内は10人以上の場合

主催 北海道立北方民族博物館  
協力 国立民族学博物館  
野外民族博物館リトルワールド  
網走市立美術館

渥美一弥氏、大村敬一氏、立川陽仁氏、  
山田亨氏、八木清氏

後援 読売新聞北見支局、朝日新聞網走支局  
毎日新聞報道部北見、北海道新聞網走支局  
網走タイムズ社、NHK北見放送局

〒093-0042 網走市字潮見309-1 北海道立北方民族博物館  
電話0152-45-3888 <http://hoppohm.org>  
＜指定管理者：財団法人北方文化振興協会＞

第23回特別展 環北太平洋の文化Ⅲ

# トーテムの物語

～北西海岸インディアンの暮らしと美～

Totem Story:  
Life and Art of  
the Northwest Coast Indians



2008.7.19(土) ▶ 10.19(日)

民族名について

民族の呼称は、独特の発音を伴うものも多く、ローマ字綴りが統一されておらず、日本語のカタカナ表記も定まっていません。また、時代によっても変わっています。

当館では、便宜的に上の地図のように記しています。

\* トリンギットは実際の発音は「クリンキット」に近いとされます。

\* クワキウトルは、現在はクワクワカワク、ヌートカはヌチャルスと表記される例が増えています。

# トーテムの物語

～北西海岸インディアンの暮らしと美～

「環北太平洋の文化」シリーズの3回目として、アラスカからカナダ、アメリカ本土の太平洋岸にいらしてきた通称「北西海岸インディアン」の文化に焦点をあてます。

生業、社会、儀礼、そして芸術について、国立民族学博物館と当館の所蔵資料を中心に映像をまじえて紹介します。

## 海と川に生きる

サケなどの魚類をはじめ、アザラシ、オットセイ、クジラといった北太平洋の豊富な資源とともに、森林の恵みにも支えられ、人びとは定住的な生活を営んできました。



オヒョウ用釣針 ハイダ カナダ  
国立民族学博物館所蔵

## 儀礼と芸術

富をたくわえた人びとは階層社会を築き、大きな家(ロングハウス)に親族でくらししていました。儀礼を重んじ、儀式に使う道具をはじめ、生活用具にも独特の文様を施しました。



クワキウトルの人びとが運営する博物館・ウミスタ文化センターの壁面とトーテムポール (カナダ/アラート・ベイ)

## トーテムの世界

「トーテム」とは、自分たちの祖先と特別な関わりをもつと信じられている特定の動植物や自然現象のことです。ワシ、ワタリガラス、クマ、オオカミ、シャチなど集団ごとに異なるトーテムはそれぞれに物語を有していました。

トーテムポール(ミニチュア)  
Ernie Henderson クワキウトル  
カナダ 1984年作



## 〈シルクスクリーン版画〉

1960年代にカナダで制作が始まり、北西海岸インディアンの美術の普及に大きな役割を果たしています。動物を題材にした版画を中心に、そこに描かれた物語も紹介します。



版画「ワタリガラスとカエル」 Jack Hudson ツィムジャン アラスカ 1997年作  
ワタリガラスは不思議な力を持っており、それを良いことに使う。また、残念ながら、わるさにもその力を使う。彼はいたずらの冒険をしている最中に、ひどいケガをする。カエルは治療をする力を持っており、ワタリガラスの傷を癒すのを助ける。

## 現代の文化

18世紀頃から西欧の影響を強く受けるようになり、アメリカやカナダの国家形成にも巻き込まれて、伝統的な文化は急激に衰退しました。しかし、20世紀後半からは芸術をはじめとする文化復興が盛んになってきています。



木彫人形  
(かご編みをする女性)  
国立民族学博物館所蔵



村の記念日に、ポタン・ローブを身に付けて踊る  
ツィムジャンの人びと(アラスカ州メトラカトラ)

背景写真: トーテムポール公園(アラスカ州サクスマン)  
所蔵先が明記されていない資料は北方民族博物館所蔵